

身近なところでの取り組み ～県産木材の利用～

■ベンチ・プランター(高松シンボルタワー)



■机・いす



■学校の内装



【ねらい】

私たちの身近な香川での温暖化の現状やその原因を理解した上で、木材が持つ温暖化防止の効果や環境にやさしい側面を紹介することにより、自分たちの日常生活の中で県産木材を利用することの意義を理解させ、実践行動に繋げていきます。

身近なところでの取り組み
～県産木材の利用～

■ベンチ・プランター(高松シンボルタワー)



■机・椅子



■学校の内部



【資料解説】

この資料は、香川県産木材を利用した高松シンボルタワーのベンチとプランター(左)と木材製品の机・椅子(右上)、土庄中学校の内装(廊下の腰壁、窓枠、戸)(右下)での利用例の写真です。他にも住宅やさまざまな施設の内装などに県産木材を使う取り組みが進められています。

温暖化や森林破壊など地球規模の環境問題が深刻化していますが、地域で育った木材を利用することには、それらを防ぐ環境にやさしい効果があります。木材は、製造に要するエネルギーがアルミニウムの800分の1、鋼材の200分の1程度と製造に要するエネルギーが少ない資源ですが、製造過程に比べて輸送過程での消費エネルギーが大きいという指摘があります。

日本では、木材需要の約73%(平成23年林野庁データ)を、東南アジアや北米など遠く海外から輸入される外国産材に依存しており、輸送過程を通じてたくさんのエネルギーを使っています。特に香川県では、県内の製材工場への木材入荷量の約89%を外国産材に頼っています。したがって、輸送に大量のエネルギーを使う外国産材に替えて、地元で生産された県産木材を利用することは、木材の輸送に要するエネルギーを大幅に減少させ、地球温暖化の防止に貢献するのです。

平成23年9月に香川県産木材の製材・加工を行う初の拠点となる「かがわ木材加工センター」が高松市香南町に完成し、放置された間伐材の有効利用を図るとともに、森林資源の保護・育成に取り組んでいます。写真・データ提供：県みどり整備課

【参考】海外での違法伐採による原生林破壊の防止

木材はどこで生産されたものを使うかによって、環境に与える影響が非常に大きい資源です。違法に伐採された木材を利用することは、森林の破壊につながり、逆に適切に管理された人工林から生産される木材を使うことは、人工林の適切な整備を促し、森林を元気にします。

海外の原生林を保全し、県内の森林(人工林)の整備を促すためにも県産木材の利用が重要です。

【関連する各教科の学習内容】

	小学3	小学4	小学5	小学6	中1	中2	中3
社会		○地域の人の生活	○我が国の国土の自然などの様子 ○資源資源の働き ○公害と自然の破壊・気象環境	○世界の国土の本	【地理】 ○世界と比べた日本の地理的特徴(資源、エネルギーと産業)		【公民】 ○国民の政治的・経済的役割(環境の保全) ○世界平和と人類の福祉の拡大(地球温暖化、資源・エネルギー)よりよい未来を創出して
理科				○生物と環境			○自然環境の保全と科学技術の発展
技術・家庭(技術)					○生活や環境の中で利用されている機械 ○エネルギー・運動エネルギーの仕組みと保存の法則 ○エネルギー・運動に関する技術を応用した製品の設計・製作		
家庭			○生活にいまいる方				
技術・家庭(家庭)			○環境に配慮した生活の工夫		○家庭生活と環境		